

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 鎖骨下動脈-肺動脈シャントの最適な吻合形態に関する研究

研究の目的

肺血流減少を伴う先天性心疾患の外科治療において、肺動脈の発育と低酸素血症の改善を目的に鎖骨下動脈-肺動脈シャント手術が行われています。近年では、数ミリメートルの人工血管を用いて大動脈弓部分枝血管から肺動脈に吻合する術式が用いられています。一般には対象となる血管にメスで直線状の切開を加えて吻合口を作成しますが、吻合の難易度が高く吻合部の血栓閉塞が問題となります。弘前大学医学部附属病院では、小口径血管穿孔器を用いパンチアウト法(血管壁を楕円形にくり抜く方法)で吻合口を作成する工夫を行っています。本研究は、吻合口の作成方式と人工血管の閉塞率との関連性を研究し、人工血管の開存率向上や予後改善を目的とします。

研究実施期間： 年 月 日 ~ 2025 年 3 月 31 日

(倫理委員会承認日)

対象となる方： 2002 年 1 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日の期間内に弘前大学医学部附属病院で鎖骨下動脈-肺動脈シャント術を受けられた全ての患者様が対象となります。

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当院のカルテに記録されている情報のうち、周術期情報について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、対象となる鎖骨下動脈-肺動脈シャント術施行症例を、吻合口を切開して作成した群とパンチアウト法を用いた群に分け、患者背景、術式や人工血管のサイズ、術後合併症についての情報を、電子カルテ情報を閲覧して比較検討します。また、少数の症例をランダムに選択し、CT データを 3 次元画像に再構築して血行動態についてのコンピュータシミュレーションを行います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合，当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし，連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は，該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので，ご了承願います。

| | |
|-------|---|
| 本件連絡先 | 呼吸器外科・心臓血管外科・山崎 志穂 geka1@hirosaki-u.ac.jp |
|-------|---|